

## 研究主題

思考力・表現力を高める学習指導の工夫  
～ユニバーサルデザインの考え方を生かした効果的な ICT の活用を通して～

## 1 主題設定の理由

令和5年度から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ユニバーサルデザイン（以下「UD」という。）の考え方を生かし、ICTを活用した学習指導の工夫を行い、生徒の「思考力・表現力」を高めることに重点をおいた研究を行ってきた。その結果、UDの視点を取り入れ、ICTを活用した学習指導は、生徒の「思考力・表現力」の向上に有効であることが分かった。

一方、UDの考え方に基づく支援を必要とする生徒群（以下「UD群」という。）の困り感があることや、生徒の自己肯定感や粘り強さに課題があることも分かった。

これらの課題を克服するために、実際の授業づくりにおいては、生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う「指導の個別化」や、生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、生徒自身が自らの学習が最適になるよう調整する「学習の個性化」といった「個別最適な学び」を充実する。

さらに、ペアやグループ、学級全体でお互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを組み合わせ、よりよい学びに発展させるなどの「協働的な学び」を充実させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく学習指導の工夫・改善が大切であると考え。

そこで、今年度も、UDの考え方を生かしながら、学習指導の工夫・改善に大変有効であったICTを最大限に活用して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ることができれば、生徒の思考力・表現力をさらに高めることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

## 2 研究仮説

UDの考え方を生かしながら、ICTを活用した学習指導を工夫して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させれば、生徒の思考力・表現力がさらに高まるだろう。

## 3 仮説検証の視点

本校生徒に身に付けさせたい資質・能力のうち、発達段階に応じた「思考力・表現力」の向上について検証する。

|    | 思考力・表現力                                     | 主体性                                          | 自己有用感                                                        |
|----|---------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 1年 | 情報を整理し、自分の考えや意見を表現することができる。                 | 課題に対して、自分の考えをもち、取り組もうとしている。                  | 友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を養うことで、ともに学び合い自分に自信をもつことができる。      |
| 2年 | 情報を論理的に考え、自分の考えや意見を分かりやすくまとめ、表現することができる。    | 課題に対して、自分の考えをもち、自ら進んで取り組もうとしている。             | 友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を大切にともに学び合うことができる。                 |
| 3年 | 課題解決のために適切な方法を選び、適切な方法で相手に伝えるように表現することができる。 | 課題に対して、自分の考えをもち、よりよい方法を選択して、自ら進んで取り組もうとしている。 | 友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を大切に、ともに自律的・自主的に生活するために学び合うことができる。 |

#### 4 仮説検証の方法

生徒の「思考力・表現力」の育成について、次のとおり、取組と成果から検証する。

|            | 検証の視点                                                                                                                                                                                                                                                                         | 検証方法                                                                                      |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| ICT活用      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICTの活用は有効であったか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べる場面</li> <li>・意見交換する場面</li> <li>・考えをまとめ・発表する場面</li> <li>・学習の役立ち感</li> </ul> </li> </ul>                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート（全体及びUD群）</li> </ul>                       |
| 思考力・表現力の育成 | <p>&lt;個別最適な学び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。</li> </ul> <p>&lt;協働的な学び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査</li> <li>・生徒アンケート（全体及びUD群）</li> </ul> |
|            | <p>&lt;個別最適な学び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師は、生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行っているか。（指導の個別化）</li> </ul> <p>&lt;協働的な学び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が自分や他者の考えを組み合わせ、よりよい学びが生み出せる場面を設定するなど、学習活動を工夫しているか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート</li> </ul>                               |
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の思考力・表現力は高まったか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・表現力向上の客観的評価</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査</li> <li>・復習テスト（全体及びUD群）</li> </ul>   |

#### 5 研究の方向性

| 項目       | 取組内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学びの環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> <li>①自他を尊重できる学級集団づくり（グループアプローチ等）</li> <li>②つながりを大切にする縦割り集団活動</li> <li>③すべての生徒の居場所づくりと学習機会の保障</li> <li>④保護者・地域への情報発信</li> </ul>                                                                                                                                             |
| 授業づくり    | <ul style="list-style-type: none"> <li>①「廿日市中学校授業モデル」に基づく授業の展開 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">別紙Ⅰ</span></li> <li>②校内授業研究を通じた授業改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・UDの視点（「焦点化」「視覚化」「共有化」）</li> <li>・タブレット端末等、ICTの積極的な活用</li> <li>・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実</li> </ul> </li> </ul> |

#### 6 研究の基本的な考え方

##### (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通じて、学習指導要領前文に記載されている「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう」に育成していくことが求められている。

中央教育審議会答申（平成28年）において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の具体的な内容については、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。

- ① 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているかという視点。
- ② 生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているかという視点。

## (2) 各教科における配慮事項について

学習指導要領には、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うよう示されており、各教科の配慮事項の抜粋は次のとおりである。

これらの配慮事項はこれまでも充実が図られてきたものであるが、各教科の特質を生かした学習活動の質をさらに改善・充実させていくための視点として、各教科等において参考にする。

| 教科等           | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた配慮事項                                                                                                                                                                                             |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語            | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。                                                                                                                                                     |
| 社会            | 分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。また、知識に偏り過ぎた指導にならないようにするため、基本的な事柄を厳選して指導内容を構成するとともに、各分野において、第2の内容の範囲や程度に十分配慮しつつ事柄を再構成するなどの工夫をして、基本的な内容が確実に身に付くよう指導すること。 |
| 数学            | 数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。                                                                                                                      |
| 理科            | 理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。                                                                                                                                              |
| 音楽            | 音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。                                                                                                                     |
| 美術            | 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。                                                                                                                                                                  |
| 保健体育          | 体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他の課題を発見し、その合理的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。                                                                                                     |
| 技術・家庭         | 生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること。                                                                                             |
| 外国語<br>(英語)   | 具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。                                                                           |
| 総合的な<br>学習の時間 | 生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。                                                                                                                   |
| 特別活動          | よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、生徒が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視すること。                                                                    |

### (3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

中央教育審議会答申（令和３年）では、**目指すべき新しい時代の学校教育の姿**として、**「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」**が提言された。

生徒の資質・能力を育成するにあたっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要である。

#### ア 「個別最適な学び」について

生徒に身に付けさせたい資質・能力は、家庭の経済事情など、生徒を取り巻く環境で差が生まれやすい能力でもある。「個別最適な学び」の充実を図り、学びの動機付けや効果的な取組を展開していくことによって、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、生徒一人一人に必要な力を育てていくことができる。

「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、**生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することが重要である。**

#### ① 「指導の個別化」とは

生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて、教員が指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことである。

（例）

- ・課題を早く終わらせた生徒が、教員が用意した発展的な課題に取り組む学習
- ・生徒が自分のスキルに合わせて、学習者用デジタル教科書を活用して学ぶ学習
- ・ワークシートについて、生徒がペーパーとICTを選択して学ぶことができる学習
- ・ある単元において教員の作成した学習計画表に基づいて、生徒が自分のペースで自分のやりたいところから学びを進めていく学習（単元内自由進度学習） など

一定の目標を全ての生徒が達成することを目指して、個々の生徒に応じて異なる方法等で学習を進め、**生徒自身が自分の特徴や自分に合った学習方法などを調整しながら、本校の課題でもある「粘り強く取り組む態度」を育成することも含まれる。**

#### ② 「学習の個性化」とは

生徒一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することである。

（例）

- ・総合的な学習の時間において、生徒一人一人が自分の興味・関心に基づいて学習テーマを選び、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う学習（「生き方学習」・「ふるさと学習」）
- ・各教科等で、生徒一人一人が興味・関心に合ったテーマで調査し、まとめる学習 など

「学習の個性化」には、探究的に学んでいく中で、生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えることなども含まれる。

「個別最適な学び」の充実を図るにあたっては、生徒がICTを日常的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待されている。

## イ 「協働的な学び」について

集団の中で個が埋没してしまうことがないように、生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、生徒同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働し、異なる考え方を組み合わせて、よりよい学びを生み出すことである。

(例)

- ・ 一斉授業における集団の中での個人に着目した学習活動
- ・ 内容を他者に説明するなど、生徒同士の学び合いができる学習活動
- ・ 多様な他者と協働して、問題の発見や解決に挑む学習活動 など

「協働的な学び」を発展させるには、ICT を活用し、生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図るなどの学習活動の工夫が考えられる。

「協働的な学び」の効果を高めるためには、学級経営を充実し、生徒同士が違いを認めて協力し合える学級づくりを進めることが必要である。本校が取り組んでいるグループアプローチなど、学級活動で行われる合意形成の活動は、不登校の未然防止だけでなく、他の教科等での学習の質の向上にも有効である。

また、「協働的な学び」は、同一学年・学級の生徒同士の学び合いだけでなく、異学年間の学びや地域の方々や多様な専門家との協働なども含むものである。学校行事や生徒会活動など、学校における様々な活動の中で、異学年間の交流（縦つながり）の機会を充実することで、生徒自らがこれまでの成長を振り返り、将来への展望（キャリア）を培うとともに、本校の課題でもある「自己肯定感」を育むことができる と考える。

## 7 研修計画

本年度の研修計画については、別紙2に示す。

## 8 研修構想図

本年度の研修構想図については、別紙3に示す。

# 廿日市中学校授業モデル(基本形)

ユニバーサルデザインの視点「焦点化」「視覚化」「共有化」

## 学習へ向かう姿勢づくり

- ロッカーの整理
- 廿中三力条の確認
- 話す姿勢・聞く姿勢
- 学習係による行動目標の発表

## 言語活動の充実

分かりやすく表現する

結論先行型

根拠+理由付け = 結論

「私は〇〇だと思います。〇〇という事実があり、△なので、〇〇と考えます。」

大きい情報から説明

全体から部分へ 概要から詳細へ

つながり発言をする

「私も〇〇さんの意見と同じで…」

「△さんの意見に似ていて…」

「□さんの意見に付け加えます…」

YES BUT法(反論の型)

「確かに〇〇さんの意見は◎です。

でも私の意見は△です。理由は…」

「〇〇さんの意見は△と言う点で大変理解できます。しかし□とも考えられると思います。」

※ICTを活用した表現活動にも挑戦！

振り返りの型

「これまでは〇〇だったけれど、今日授業で△の意見を聞いて□ということが分かりました。」

「△について〇だと思っていたが、▽の意見によって、□もあるのだと考えるようになりました。」

## 授業の展開

※ 〇〇 は、効果的なICT活用にも挑戦！

- 「～できる」型の語尾でめあてを示す
- 本日の学習の流れの提示
- 思考を促す課題設定をする

思考のスイッチ★を押す

- ★友達と比べて/自分の体験と比べて/前回学んだことと比べて
- ★多くの視点で/他の見方は？
- ★具体例を挙げてみよう
- ★まとめるとどうなるの？
- ★特に重要なのは？
- 思考ツールの活用

個に応じた指導(個別最適な学び)

- 学習の手引き・ヒントカードの活用
- ワークシートの工夫
- 発展コースやじっくりコース等、単元内で生徒が選択できる工夫 など

ペア・グループの活用(協働的な学び)

- ペア・グループでの学習活動
- 他との情報共有・意見交換の場を設定
- 授業支援ツールの活用
- 役割分担やジクソー型の導入 など

思考を深める切り返し

- ★その根拠は事実かな？
- ★その理由は誰もが納得いくものかな？
- ★根拠から結論まで筋が通ってるかな？
- 思考を整理させる
- グループの意見を発展させる
- 学びの深まりを創り出す

- 全体で本時に学習した学びを振り返る(必ずしも授業最後に提示しなくてよい)
- 自己評価、教員による評価

見通し

自分で考える

交流する

深める

まとめる

| 令和7年度廿日市市立廿日市中学校 校内研修等計画表一覧 |                                                  |                                                |                                     |                                                       |                    | 別紙2        |
|-----------------------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------|------------|
|                             | 研究                                               | UD(特別支援)                                       | 生徒指導部                               | 教務部<br>(総務研修・学校評価を含む)                                 | 小中連携               | 市教研        |
| 4月                          | 7日_【研究】校内研修:今年度の校内研究の方向性について                     | 4日_【特別支援】校内研修:個別の支援計画・指導計画作成について               | 4日_【保健】校内研修:アレルギー対応について             | 2日_【管理職】総務研修:職務規律の厳正確保、個人情報管理                         |                    |            |
|                             |                                                  | 7日_【特別支援】校内研修:通級指導教室について                       |                                     |                                                       |                    | 25日_市教研主任会 |
| 5月                          | 上旬_第1回教職員・生徒アンケート                                |                                                | 27日_体罰・セクハラ・いじめアンケート①<br>27日_第1回アセス |                                                       |                    | 2日_市教研     |
|                             |                                                  |                                                |                                     |                                                       |                    |            |
| 6月                          | 18日_【研究】校内授業研究:UD×ICTを活用した授業研究(個別最適な学び・協働的な学び)   |                                                |                                     | 第3週_学習意識調査(中2対象)                                      |                    | 18日_市教研    |
|                             |                                                  | 上旬_個別の支援計画・指導計画の振り返り(1学期)                      |                                     | 上旬_学校評価アンケート(保護者・生徒)                                  |                    |            |
| 7月                          | 中旬_第2回教職員・生徒アンケート                                |                                                | 下旬_【生徒指導】校内研修:アセス分析、SC・SSWによる研修     |                                                       | 〇B_三校合同研修会①:理論研修   |            |
|                             |                                                  |                                                | 上旬_【生徒指導】校内研修:学校事故防止に係る研修(心身障害生等)   | 上旬_学校評価中間まとめ                                          |                    | 2日_市教研     |
| 8月                          | 中旬_全国学力・学習状況調査結果分析<br>【研究】教科師会:授業実践交流①           |                                                |                                     | 〇B_【3学期】総務研修:わいせつ・セクハラ防止                              |                    |            |
|                             |                                                  |                                                |                                     |                                                       |                    |            |
| 9月                          | 26日_【研究】三校合同研究大会:UD×ICTを活用した授業提案(個別最適な学び・協働的な学び) |                                                |                                     |                                                       | 12日_三校合同研究会発表会     |            |
|                             |                                                  |                                                |                                     |                                                       |                    |            |
| 10月                         | 2・3日_【研究】校内授業研究:UD×ICTを活用した授業研究(個別最適な学び・協働的な学び)  | 〇B_【特別支援】個別相談:特別支援教育アドバイザーによる支援生徒の観察及び担任との個別相談 | 14日_体罰・セクハラ・いじめアンケート②<br>14日_第2回アセス |                                                       |                    |            |
|                             |                                                  |                                                |                                     |                                                       |                    |            |
| 11月                         |                                                  |                                                |                                     |                                                       |                    |            |
|                             |                                                  |                                                |                                     |                                                       |                    |            |
| 12月                         | 上旬_第3回教職員・生徒アンケート                                | 上旬_個別の支援計画・指導計画の振り返り(2学期)                      |                                     | 上旬_学校評価アンケート(保護者・生徒)                                  |                    |            |
|                             | 中旬_【研究】教科師会:授業実践交流②                              |                                                |                                     | 〇B_【2学期】総務研修:体罰・不適切な指導の防止                             | 〇B_三校合同研修会②:各校取組報告 |            |
| 1月                          |                                                  |                                                |                                     |                                                       |                    |            |
|                             | 中旬_【研究】教科師会:7年間の成果と課題・来年度に向けて                    |                                                | 中旬_【生徒指導】分掌会:7年間の成果と課題・来年度に向けて      | 中旬_【教務】分掌会:7年間の成果と課題・来年度に向けて<br>下旬_学校評価年間まとめ          |                    | 14日_市教研    |
| 2月                          | 上旬_第4回教職員・生徒アンケート                                |                                                | 上旬_体罰・セクハラ・いじめアンケート③                |                                                       |                    |            |
|                             |                                                  | 〇B_【特別支援】個別相談:特別支援教育アドバイザーによる支援生徒の観察及び担任との個別相談 |                                     |                                                       |                    |            |
| 3月                          |                                                  |                                                |                                     |                                                       | 下旬_三校合同研修会③:最終報告   |            |
|                             | 中旬_【研究】校内研修:7年間の成果と課題・来年度に向けて                    | 上旬_個別の支援計画・指導計画の振り返り(年間)                       | 中旬_【生徒指導】校内研修:7年間の成果と課題・来年度に向けて     | 〇B_【1学期】総務研修:バウハラの防止<br>中旬_【教務】校内研修:7年間の成果と課題・来年度に向けて |                    |            |

※5月末現在で把握している日程です、変更になる可能性があります。

# 令和7年度廿日市中学校研究構想図

学校教育目標

本校で学んだことに誇りをもち、高い志のもと「自立した社会人」として活躍できる生徒の育成

主体性

自己有用感

思考力・表現力

(3年) 課題解決のために適切な方法を導き、適切な方法で相手に伝わるように表現することができる。  
(2年) 情報を論理的に考え、自分の考えや意見を分かりやすくまとめ、表現することができる。  
(1年) 情報を整理し、自分の考えや意見を表現することができる。

「主体的・対話的で深い学び」の実現

(指導の個別化)

- ◆ 生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定
- ・ 課題を早く終わらせた生徒が、発展的な課題に取り組む学習
- ・ 生徒が自分のスキルに合わせて、学習者用デジタル教科書を活用して学ぶ学習
- ・ ワークシートについて、生徒がペーパーと ICT を選択して学ぶことができる学習
- ・ 教員の作成した学習計画表に基づいて、生徒が自分のペースで自分のやりたいところから学びを進めていく学習（自由進度学習）など

(学習の個性化)

- ◆ 生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会の提供
- ・ 総合的な学習の時間での「生き方学習」「ふるさと学習」
- ・ 各教科等で、生徒一人一人が興味・関心に合ったテーマで調査し、まとめる学習 など

個別最適な学び

一体的な充実

協働的な学び

- ◆ 生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、生徒同士、地域の方々など、多様な他者と協働し、異なる考え方を組み合わせて、よりよい学びを生み出す場の設定
- ・ 一斉授業における集団の中での個人に着目した学習活動
- ・ 内容を他者に説明するなど、生徒同士の学び合いができる学習活動
- ・ 多様な他者と協働して、問題の発見や解決に挑む学習活動 など

Google Workspace、ロイロノート、デジタル教科書など

効果的な ICT の活用

焦点化

視覚化

共有化

ユニバーサルデザイン

【学びの環境づくり】

- 自他を尊重できる学級集団づくり（グループアプローチ等）
- つながり大切に縦割り集団活動
- すべての生徒の居場所づくりと学習機会の保障
- 保護者・地域への情報発信

【研究主題】

思考力・表現力を高める学習指導の工夫

～ユニバーサルデザインの考え方を生かした効果的なICTの活用を通して～